

ISSN 2186 – 3989

経済経営学部におけるモラトリウムの下位分類と
アイデンティティ

田部田 晋、篠原 史成、斎藤 英明

Identity and The Subclassification of Moratorium in Faculty of
Economics and Management

Shin Tabeta, Fuminari Shinohara and Hideaki Saito

北 陸 大 学 紀 要
第57号(2024年9月)抜刷

経済経営学部におけるモラトリアムの下位分類と アイデンティティ

田部田 晋^{**}、篠原 史成^{*}、斎藤 英明^{*}

Identity and The Subclassification of Moratorium in Faculty of
Economics and Management

Shin Tabeta^{**}, Fuminari Shinohara^{*} and Hideaki Saito^{*}

Received July 16, 2024

Accepted August 4, 2024

抄録

近年、大学生には幅広い能力が求められており、大学の教育方法や学生の特徴が大きく変化している。これらのことから、大学の教育方法を改善・改良することが求められているが、学生の特徴によって適切な授業方法等が異なるため、授業の改善・改良方法が明確となっていない。さらに、学生の特徴を捉えずに授業の改善・改良をおこなった場合、再現性を担保することが難しいと考えられる。再現性の担保は、心理学などの分野で問題となっており、再現性を担保するためには母集団を明確にすることが必要であると考えられる。そのため、教育の分野において母集団を明確に定義するために、必要な学生の特徴を捉える必要がある。

捉えるべき大学生の特徴として考えられるものは動機づけやキャリア意識、自律性、自己効力感など多々あるが、本研究では大学生の就職に対する考え方であるモラトリアムの状態や職業決定の程度、職業を決定するために必要であるアイデンティティの確立度から北陸大学の経済経営学部の特徴を明らかにし、学生への指導方法を提案する。

その結果、北陸大学経済経営学部の学生は、職業決定に対して前向きであり、社会的責任の免除された時期と考えている程度は低いと考えられる。しかしながら、アイデンティティの確立度が低いため、自己を振り返るような機会を作ることによってアイデンティティの醸成を促す必要があると考えられる。

キーワード：モラトリアム、職業決定、アイデンティティ

* 北陸大学経済経営学部 Faculty of Economics and Management, Hokuriku University

**責任著者 田部田 晋 Shin Tabeta s-tabeta@hokuriku-u.ac.jp

はじめに

近年、大学生には幅広い能力が求められている（中井, 2015）。また、アクティブラーニングの推奨（文部科学省, 2012）や 2018 年からのコロナウイルスの影響などによって、大学の教育方法や学生の特徴が大きく変化している（山内, 2021; 梶谷ら, 2021）。これらのことから、大学の教育方法を改善・改良することが求められているが、どのような改善・改良をおこなうことがよいのかは明確でない。学生の特徴によって適切な授業方法等が異なることが、授業の改善・改良方法が明確となっていない要因の一つであると考えられる。さらに、学生の特徴を捉えずに授業の改善・改良をおこなった場合、再現性を担保することが難しいと考えられる。再現性の担保は、心理学などの分野で問題となっている（池田ら, 2016; 大久保, 2016）。教育の分野でも追試に失敗した報告がいくつかある（山口ら, 2011; 古屋ら, 2018）。Gordon et al. (2020) は教育分野の追試成功率は 42% であると予測している。教育の分野における再現性を低下させる要因として、検定力の不足や母集団の未定義、過度の一般化などが報告されている（中村ら, 2021）。過度の一般化の対策として、母集団を明確に定義することが挙げられており（中村ら, 2021）、教育の分野において母集団を明確に定義するために、学生の特徴を捉える必要がある。

捉えるべき大学生の特徴として考えられるものは動機づけやキャリア意識、自律性、自己効力感など多々存在する。北陸大学の学生の特徴を捉えるためにこれまでいくつかの研究が行われてきた（田部田ら, 2023; 斎藤ら, 2023, 2024; 篠原ら, 2023, 2024）。たとえば田部田ら（2023）は、専門科目群の授業に対して学生がどのくらい価値を抱いているかをキャリア意識の観点から調査した。その結果、内発・興味価値、利用価値、獲得価値がすべて高いキャリア意識の高さと学業成績が正の相関があることが明らかとなった。これらのことから、本研究ではキャリア意識として学生が将来就職する職業をどれだけ明確に決定しているのかに着目する。

職業決定は退学率を減らすために必要だとされているソーシャル・スキルの要因とされている（佐藤, 2010; 山田, 2009）。ソーシャル・スキルは、職業決定のほかに価値づけ、目標設定、人間関係・葛藤の解決の仕方、人格発達・自己認識などを行ったテーマを通して教えられている（佐藤, 2010; 山田, 2009）。また、職業決定は学生が授業を受ける動機として大きな要因となっていることが知られている。たとえば、内発的価値や社会的利用価値、などは動機づけに対して大きな影響を与えることが報告されている（Watt and Richardson, 2007）。さらに、職業決定は学生時代に培われた興味やスキルに影響を受けることも報告されている（Lent et al., 1994）。

職業決定がおこなわれるのは、心理社会的モラトリアム（Psychosocial Moratorium）と呼ばれる期間である（Erikson, 1959 小此木訳 1973）。この期間では、様々な社会的役割に関する模索をおこなうことが必要とされているが、日本においては模索とともに全能感やしらしけ、遊び感覚という特性を併せ持つとされている（小此木, 1977）。下山ら（1992）は、日本の大学生のモラトリアムの状態を回避、拡散、延期、模索の 4 つの概念に分化した。回避は、将来的展望がなく、無気力で職業決定を回避しようとする状態である。拡散は、職業決定の意思はあるが、職業決定の方向性が定まらず心理的に不安定となっている状態である。延期は、社会的責任が免除された時期として大学生活を過ごす、大学生である間は職業決定を延期し、自由に遊び楽しむ、必要なときに社会参加をおこなう状態である。模索は、主体的に社会的責任を果たすように努力をおこない、積極的に職業決定にも取り組む状態である。これらのことから、本研究では大学生がどのような心理状態で職業決定に望んでいるのかをモラトリアムの状態から調査する。

また、職業決定はアイデンティティの確立のための中心的要素であるとされている

(Munly, 1977, 1975). 下山ら (1992) は、アイデンティティをアイデンティティの基礎とアイデンティティの確立の 2 つの概念に分化した。アイデンティティの基礎は、対人場面における孤独感や不安などの情緒的安定性を表しており、発達早期の基本的信頼や自律性といった内容に関わるものである。アイデンティティの確立は、主体性や個性、社会性といった青年後期の発達課題に関わるものである。本研究では、アイデンティティの確立度と職業決定やモラトリアムの状態との関係性も調査する。

これらのことから本研究ではモラトリアムの状態や職業決定の程度、アイデンティティの確立度から北陸大学の経済経営学部生の特徴を明らかにし、学生への指導方法を提案する。

方法

1. 研究対象者

対象とする授業を受けている北陸大学経済経営学部マネジメント学科に所属している学生 197 (男性：165 名，女性：30 名，無回答：2 名，平均年齢 19.4 ± 1.07 歳) とした。また，対象とした学生は主に 1, 2 年生 (1 年生：97 名，2 年生：90 名，3 年生：7 名，4 年生：3 名) とした。

2. 計測項目

計測項目は下山 (1992) を参考にアンケートを実施した。アンケートは、モラトリウム尺度、アイデンティティ尺度、職業決定尺度の全 48 項目の質問から構成されている (表 1)。

モラトリウム尺度は、回避、延期、拡散、模索についてそれぞれ 6 項目の質問で構成されており、3 段階 (3: あてはまる, 2: どちらとも言えない, 1: あてはまらない) で回答させた。

アイデンティティ尺度はアイデンティティの基礎とアイデンティティの確立についてそれぞれ 10 項目の質問で構成されており、4 段階 (4: あてはまる, 3: どちらといえばあてはまる, 2: どちらかといえばあてはまらない, 1: あてはまらない) で回答させた。

職業決定尺度は、4 つの質問から構成されており、3 段階 (3: あてはまる, 2: どちらとも言えない, 1: あてはまらない) で回答させた。

また、アンケートでは同じ分類が続けることが無いようにランダムに配置した。

表 1 アンケートの質問項目

質問番号	質問項目	分類
1	何を基準にして将来の職業を考えたら良いのかわからない。	回避
2	せっかく大学に入ったのだから、今は職業のことは考えたくない。	延期
3	できることなら職業は、いつまでも先に伸ばし続けておきたい。	回避
4	望む職業につけないのではと不安になる。	拡散
5	将来、やってみたい職業がいくつかあり、それらについていろいろ考えている。	模索
6	職業と言われても、まだ先のことのようでピンとこない。	延期
7	将来自分が働いている姿が全く思い浮かばない。	回避

8	職業のことを考えると、とても焦りを感じる。	拡散
9	就職については、まじめに努力しなくてもなんとかかなると思っている。	延期
10	職業に就くということは、墓場に入るイメージがある。	回避
11	これまで、自分自身で決定するという経験が少なく、職業のことを考えると不安になる。	拡散
12	将来の職業については、いくつかの職種に絞られてきたが、最終的に一つに決められない。	模索
13	誤った職業をしてしまうのではないかという不安があり、決定できない。	拡散
14	職業に関する情報がまだ充分にないので、情報を集めてから決定したい。	模索
15	自分の将来の職業について真剣に考えたことがない。	延期
16	自分一人で職業を決める自身がない。	拡散
17	自分の無限の可能性を考えると、とてもひとつに決められない。	模索
18	私は、あらゆるものになれるような気持になる時と、何にもなれないのではないかという気持になる時がある。	拡散
19	これだと思う職業が見つかるまでじっくり探していくつもりだ。	模索
20	自分が職業としてどのようなことをやりたいのかわからない。	回避
21	職業のことは、大学4年生になってから考えるつもりだ。	延期
22	できることなら職業は、いつまでも先に伸ばし続けておきたい。職業など持たずいつまでも好きなことをしていきたい。	回避
23	職業は決まっていないが、今の関心を深めていけば職業につながってくると思う。	模索
24	今の自分にとって職業につくことは、重要なことではない。	延期
25	私は、興味を持ったことはどんどん実行に移していく方である。	確立
26	私は、やりそこないをしないかと心配ばかりしている。	基礎
27	自分の生き方は、自分で納得の行くものである。	確立
28	私の心は、とても傷つきやすく、もろい。	基礎
29	私は、十分に自分のことを信頼している。	確立
30	異性とのつきあい方がわからない。	基礎
31	私は、自分なりに生き方を主体的に選んでいる。	確立
32	何かしているより空想に耽っていることが多い。	基礎
33	自分は、十分に自分のことを信頼している。	確立
34	私は、人がみているとうまくやれない。	基礎
35	社会の中での自分の生きがいがわかってきた。	確立

36	私は、どうしたらよいかわからなくなると自分の殻の中に閉じ込めてしまう。	基礎
37	自分にまとまりが出てきた。	確立
38	自分一人で初めてのことをするのは不安だ。	基礎
39	私は、自分の個性をととても大切にしている。	確立
40	周りの動きについていけず、自分だけ取り残されたと感じることがある。	基礎
41	私は、自分なりの価値観を持っている。	確立
42	私は、人と活発に遊べない。	基礎
43	私は、魅力的な人間に成長しつつある。	確立
44	自分の中には、常に漠然とした不安がある。	基礎
45	自分の職業計画は、着実に進んでいると思う。	職業
46	自分のやりたい職業は決まっており、今は、それを実現していく段階である。	職業
47	自分の職業には自身を持っている。	職業
48	自分なりに考えた結果、最終的に一つの職業を選んだ。	職業

3. 実験手順

アンケートは Microsoft Forms を使用していくつかの授業中にアンケートの URL を提示し、実施した。そのとき、また、倫理的な配慮として、参加は自由意志であること、収集したデータは学会発表や論文投稿を通じて情報公開されること、「個人が特定されるような情報は公開されないことを教示した。

結果

回答の得られた 197 名を分析対象とした。統計処理は、統計解析ソフトウェア R (Ikehara and Gentleman, 1996) を使用した。質問項目ごとの平均値は最小で 1.62, 最大で 2.52 であり、天井効果・床効果を示す項目は見られなかった。そして、モラトリアム尺度の構成概念を適切に反映しているかどうか検討するために、重みなし最小 2 乗法による共分散構造分析によって、確認的因子分析を行った。その結果、このモデルの適合度指数は、CFI=.764, TLI=.735, RMSEA=.089 を示した (図 1)。この結果をもとに、各下位尺度を設定し信頼性係数 (Cronbach's α) を算出したところ、回避=.75, 拡散=.79, 模索=.70, 延期=.74 の値を示した。下位尺度相関に関しては、回避と拡散の間に強い相関 ($r=.811$, $p<.001$), 拡散と回避, 拡散と模索, 回避と延期の間に強い相関 ($r=.811$, $p<.001$: $r=.835$, $p<.001$: $r=.726$, $p<.001$)。回避と模索の間に中程度の相関 ($r=.592$, $p<.001$)があった。高いモデルの適合度指数ではなかったが、すべての概念においても高い α 係数を得られていることから、モラトリアム尺度の構成概念を適切に反映することができたと考えられる。

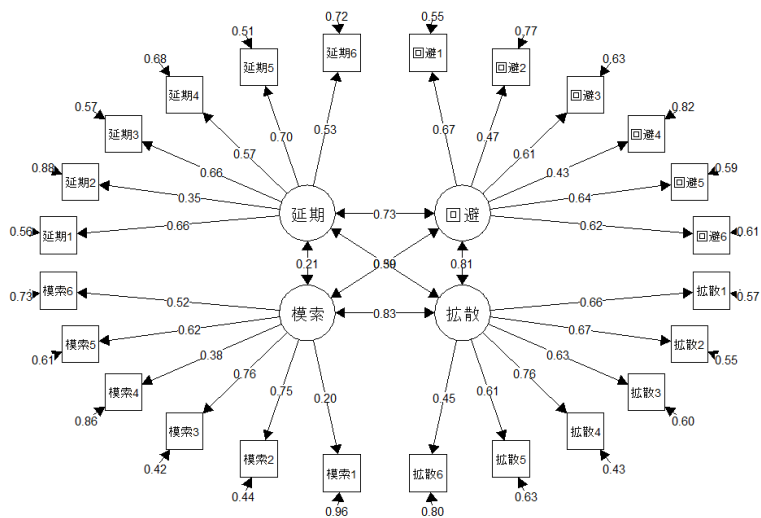


図 1 モラトリアム尺度における因子分析結果

アイデンティティ尺度の構成概念を適切に反映しているかどうか検討するために、重みなし最小2乗法による共分散構造分析によって、確認的因子分析を行った。その結果、このモデルの適合度指数は、CFI=.851, TLI=.833, RMSEA=.084を示した(図2)。この結果をもとに、各下位尺度を設定し信頼性係数(Cronbach's α)を算出したところ、アイデンティティの基礎=.88, アイデンティティの確立=.88の値を示した。高いモデルの適合度指数ではなかったが、どちらの概念においても高い α 係数を得られていることから、アイデンティティ尺度の構成概念を適切に反映することができたと考えられる。

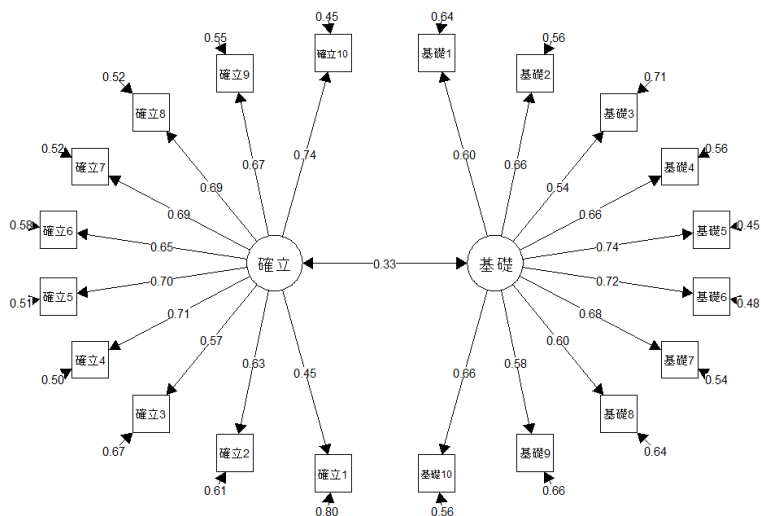


図 2 アイデンティティにおける因子分析結果

職業決定尺度の構成概念を適切に反映しているかどうか検討するために、重みなし最小2乗法による共分散構造分析によって、確認的因子分析を行った。その結果、このモデルの適合度指数は、CFI=.987, TLI=.960, RMSEA=.090を示した(図3)。この結果をもとに、各下位尺度を設定し信頼性係数(Cronbach's α)を算出したところ、職業決定=.80の値を示した。高いモデルの適合度指数であり、高い α 係数を得られていることから、職業決定尺度の構成概念を適切に反映することができたと考えられる。

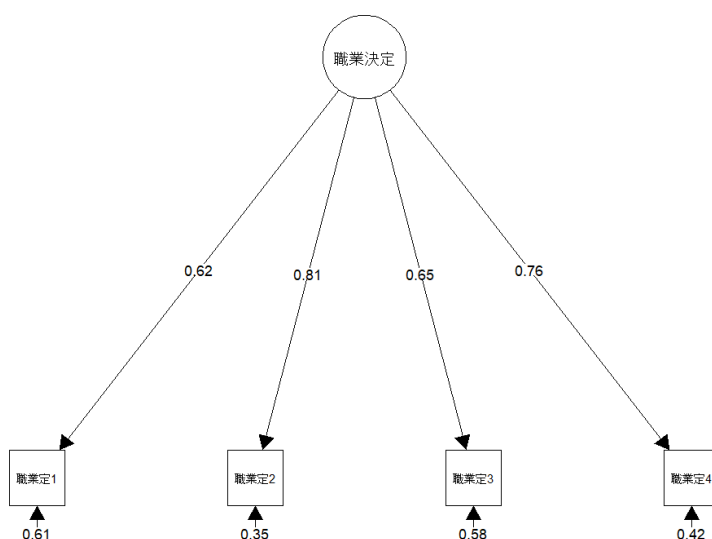


図 3 職業決定における因子分析結果

モラトリアム尺度はシャピロウィルク検定の結果、正規性は確認できなかった。モラトリアム尺度ごとに、違いがあるかフリードマン検定を用いて調べた結果、 $\chi^2(3)=119.44$, 有意確立 $p<0.01$ と有意であった。ウィルコクソンの符号付順位検定による多重比較の結果、回避と延期 ($z=6.41$, $r=0.23$, $p<0.01$), 回避と拡散 ($z=4.92$, $r=0.18$, $p<0.01$), 回避と模索 ($z=5.19$, $r=0.18$, $p<0.01$), 延期と拡散 ($z=7.84$, $r=0.28$, $p<0.01$), 延期と模索 ($z=Inf$, $r=Inf$, $p<0.01$)において優位な差があった(図3)。

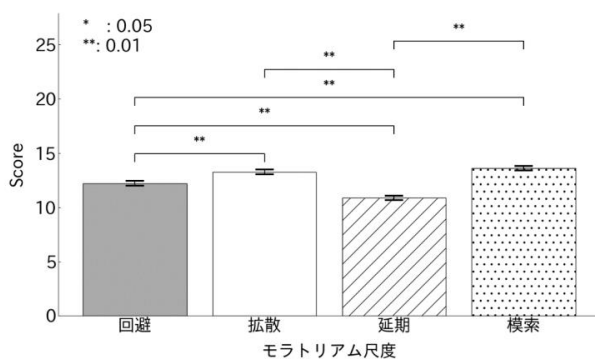


図 4 モラトリアム尺度の結果

GPA が 1.0 未満の学生を cluster1, 1.0 以上 2.0 未満の学生を cluster2, 2.0 以上 3.0 未満の学生を cluster3, 3.0 以上の学生を cluster4 とした (表 2).

	cluster1	cluster2	cluster3	cluster4
人数	6	89	72	30
平均	0.756	1.572	2.498	3.305

延期はシャピロウィルク検定の結果, 正規性は確認できなかった. 延期にクラスごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果, $\chi^2(3)=1.13$, 有意確立 $p=0.77$ と有意でなかった (図 5).

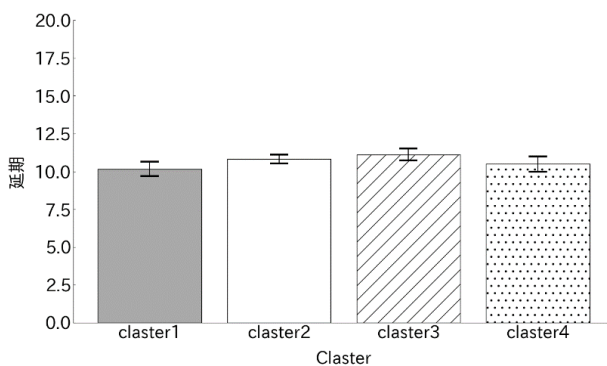


図 5 クラスごとの延期の結果

回避はシャピロウィルク検定の結果, 正規性は確認できなかった. 回避にクラスごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果, $\chi^2(3)=3.09$, 有意確立 $p=0.38$ と有意でなかった (図 6).

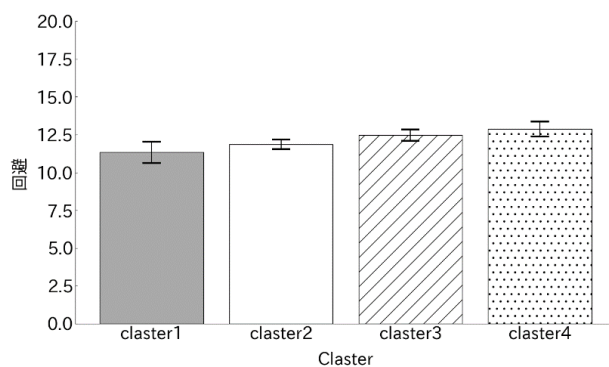


図 6 クラスタごとの回避の結果

拡散はシャピロウィルク検定の結果、正規性は確認できなかった。拡散にクラスタごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果、 $\chi^2(3)=3.33$ 、有意確立 $p=0.34$ と有意でなかった (図 7)。

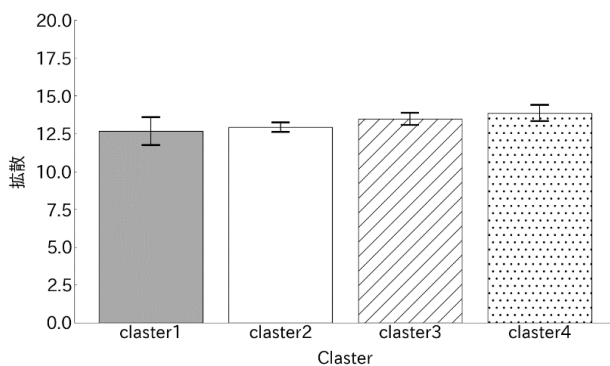


図 7 クラスタごとの拡散の結果

模索はシャピロウィルク検定の結果、正規性は確認できなかった。模索にクラスタごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果、 $\chi^2(3)=3.09$ 、有意確立 $p=0.38$ と有意でなかった (図 8)。

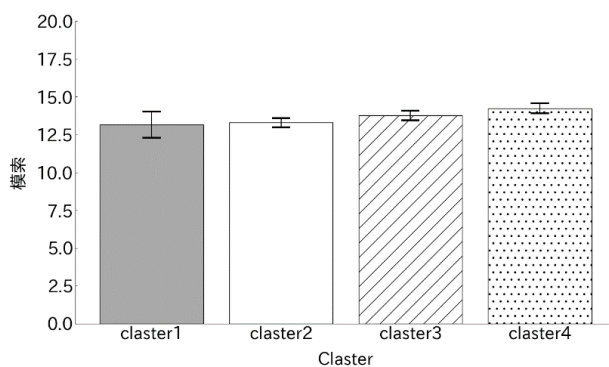


図 8 クラスタごとの模索の結果

アイデンティティの基礎はシャピロウィルク検定の結果，正規性は確認できなかった．アイデンティティの基礎にクラスタごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果， $\chi^2(3)=2.09$ ，有意確立 $p=0.55$ と有意でなかった (図 9)．

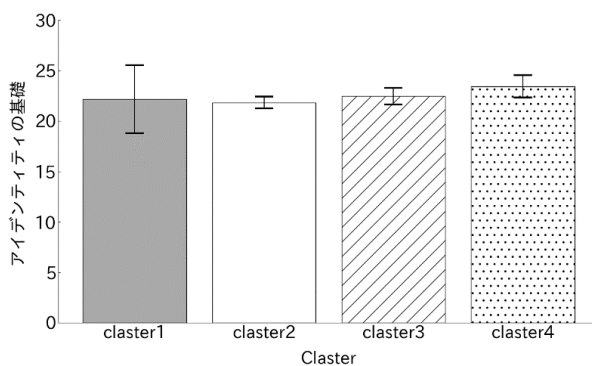


図 9 クラスタごとのアイデンティティの基礎の結果

アイデンティティの確立はシャピロウィルク検定の結果，正規性は確認できなかった．アイデンティティの確立にクラスタごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果， $\chi^2(3)=7.40$ ， $p=0.06$ と有意でなかった (図 10)．

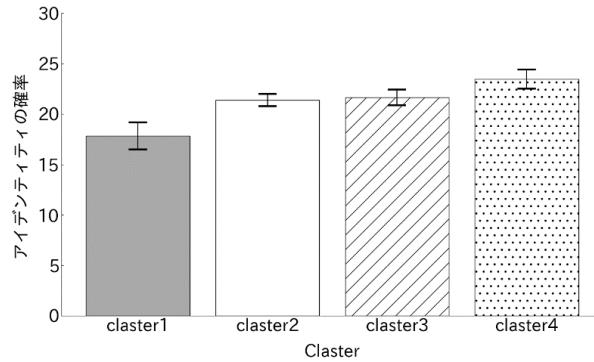


図 10 クラスタごとのアイデンティティの確立の結果

職業決定はシャピロウィルク検定の結果、正規性は確認できなかった。職業決定にクラスタごとに違いがあるかをクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて調べた結果、 $\chi^2(3)=3.68$ 、有意確立 $p=0.30$ と有意でなかった (図 11)。

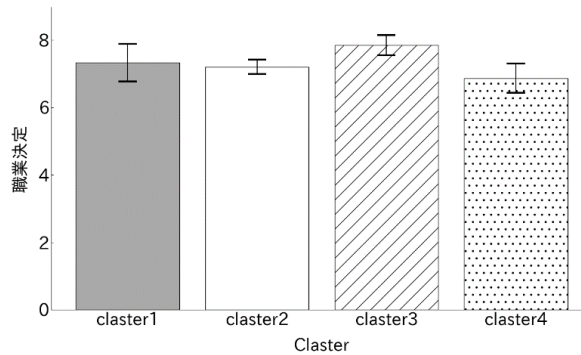


図 11 クラスタごとの職業決定の結果

考察

北陸大学経済経営学部 of 学生は模索、拡散、回避、延期の順でモラトリウム尺度を保持していることが明らかとなった。モラトリウム尺度間の相関は、模索と拡散、回避と拡散、回避と延期の間に中程度の相関があった (表 3)。回避と延期間の中程度の相関は、どちらも職業決定を猶予するという点が共通しているためであると考えられる。しかしながら、模索と拡散、回避と拡散間の中程度の相関は、概念的に共通する部分はないため、相関はないはずである。実際、下山 (1992) の研究では、模索と拡散、回避と拡散の間に相関は見られない。模索と拡散が高く、延期が低いことから、北陸大学経済経営学部の学生は、職業決定に対して前向きであり、社会的責任の免除された時期と考えている程度は低いと考えられる。また、模索と拡散、拡散と回避の間に中程度の相関があり、職業決定尺度の平均値が 7.391 であることから、職業決定の程度が高くないと考えられる。

表 3 モラトリアム尺度間の相関係数

	回避	延期	拡散
延期	0.621		
拡散	0.619	0.322	
模索	0.399	0.298	0.681

学習内容が将来に対してどのような意味を持っているのかを理解することが、学業成績を高くする要因であるという報告がある（西村ら, 2011, 田部田ら, 2023）。しかしながら、モラトリアム尺度、アイデンティティ尺度と職業決定のすべての概念において GPA によるクラスごとに有意な差はなかった。また、アイデンティティ尺度は同様のアンケートを使用している他の研究よりも、低い値であった（山本, 2013）。アイデンティティの醸成は職業決定とともになされるため、アイデンティティが確立されていない状態では、明確なキャリアを想像することができない。明確なキャリアを想像することができないことで、職業決定の程度も低くなる。そのため、職業決定の前にアイデンティティの醸成を促す工夫が学生に対して必要であると考えられる。

アイデンティティの基礎や確立の程度は、自伝的記憶と相関があると報告がある（山本, 2013, 2015）。また、アイデンティティの確立度の高い学生は自己に対する情報量が豊富であるため自伝的記憶が具体的であると報告されている（山本, 2013）。北陸大学経済経営学部の学生は、授業において自己紹介などをスピーチさせたときに具体性に欠けることが多く、一つの物事に対して長く話すことも苦手であることが多い。そのため、自己を振り返る機会を多く提供することで学生のアイデンティティの確立度を高める工夫が北陸大学の学生に対して必要であると考えられる。また、自己を振り返るときにその記憶が自己にとって重要である方がアイデンティティの醸成を促すと言われているため（山本, 2015）に、そのような経験をする機会を提供するような工夫も必要であると考えられる。

謝辞

本研究は北陸大学特別研究助成（学内環境向上システムの開発、代表；田部田晋）を受けたものである。

参考文献

- Erikson, E. H. (1959). *Identity and The Life Cycle*, International University Press. (エリクソン, 小此木啓吾 (訳). (1979). 自我同一性, 誠信書房.)
- Gordon, M., Viganola, D., Bishop, M., Chen, Y., Dreber, A., Goldfedder, B., Holzmeister, F., Johannesson, M., Liu, Y., Twardy, C., Wang, J., & Pfeiffer, T. (2020). Are replication rates the same across academic fields? Community forecasts from the DARPA SCORE programme. *Royal Society Open Science*, 7(7), 200566.
- Ihaka, R., & Gentleman, R. (1996). R : a language for data analysis and graphics, *Journal of Computational and Graphical Statistics.*, 5, 299-314.
- Lent, R. W., Brown, S. D., & Hackett, G. (1994). Toward a unifying social cognitive theory of career and academic interest, choice, and performance. *Journal of vocational behavior*, 45(1), 79-122.
- Munly, P. H. (1975). Erik Erikson's Theory of Psychosocial Development and Vocational Behavior. *Journal of Counseling Psychology*, 22, 314-319.
- Munly, P. H. (1977). Erik Erikson's Theory of Psychosocial Development and Career Development. *Journal of Vocational Behavior*, 10, 261-269.

- Watt, H. M., & Richardson, P. W. (2007). Motivational factors influencing teaching as a career choice: Development and validation of the FIT-Choice scale. *The Journal of experimental education*, 75(3), 167-202.
- 池田功毅, & 平石界. (2016). 心理学における再現可能性危機：問題の構造と解決策. *心理学評論*, 59(1), 3-14.
- 大久保街亜. (2016). 帰無仮説検定と再現可能性. *心理学評論*, 59(1), 57-67.
- 小此木啓吾. (1977). モラトリアム人間の時代. 中央公論社.
- 梶谷康介, 土本利架子, & 佐藤武. (2021). 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響：文献および臨床経験からの考察. *健康科学*, 43, 1-13.
- 斎藤英明, 田部田晋, 篠原史成. (2023). 専門基礎ゼミナールにおける主体的な学びの変化. *北陸大学紀要*, 55, 81-89.
- 斎藤英明, 田部田晋, 篠原史成. (2024). 学生の自律性の現状把握および促進要因に関する分析. *北陸大学紀要*, 57, 119-128.
- 佐藤浩章. (2010). 大学教員のための授業方法とデザイン. 玉川大学出版部.
- 下山晴彦. (1992). 大学生のモラトリアムの下位分類の研究 -アイデンティティの発達との関連で-. *教育心理学研究*, 40(2), 1-9.
- 篠原史成, 斎藤英明, 田部田晋. (2023). 2023 年度前期 1 年時ゼミナールを通じた学習態度の変容観察. *北陸大学紀要*, 55, 147-154.
- 篠原史成, 斎藤英明, 田部田晋. (2024). 北陸大学経済経営学部における学習動機づけの経歴. *北陸大学紀要*, 57, 129-137.
- 田部田晋, 篠原史成, 斎藤英明. (2023). 2023 年度前期専門科目群におけるキャリア意識の特徴. *北陸大学紀要*, 55, 165-172.
- 中井俊樹. (2015). シリーズ大学法 3 アクティブラーニング. 玉川大学出版部.
- 中村大輝, 原田勇希, 久坂哲也, 雲財寛, & 松浦拓也. (2021). 理科教育学における再現性の危機とその原因. *理科教育学研究*, 62(1) 3-22.
- 西村多久磨, 河村茂雄, & 櫻井茂男. (2011). 自律的な学習動機づけとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセス—内発的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか?—. *教育心理学研究*, 59(1), 77-87.
- 古屋光一, & 安達正敏. (2018). 小学生, 中学生, 大学生の理科における問題解決能力の比較. *北海道教育大学紀要. 教育科学編*, 68(2), 323-336.
- 文部科学省. (2012). 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～(答申). 中央教育審議会 Available at: http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf (Accessed: 14th July 2019).
- 山内祐平. (2021). コロナ禍下における大学教育のオンライン化と質保証. *名古屋高等教育研究*, 21, 5-25.
- 山口陽弘, & 前田高之. (2011). メタ認知的支援が理科教育のルール学習に及ぼす効果の検討. *群馬大学教育実践 研究*, 28, 267-277.
- 山田礼子. (2009). 大学における初年次教育の展開. *ソーシャル・スキルクオリティ・エデュケーション*, 2, 157-74.
- 山本晃輔. (2013). アイデンティティ確立の個人差が意図的および無意図的に想起された自伝的な記憶に及ぼす影響. *発達心理学研究*, 24(2), 202-210.
- 山本晃輔. (2015). 重要な自伝的記憶の想起がアイデンティティの達成度に及ぼす影響. *発達心理学研究*, 26(1), 70-77.